

子宮頸がん検診 女性医師が担当 受診して

中央市と山梨大医学部は10～11月にかけて、若い女性の子宮頸（けい）がん検診の受診率向上を目指し、市内の20～30代を対象にした週末に完全予約制で女性医師が検診するモデル事業を行う。受診しやすい環境をつくることで、受診率向上につながるかどうかを検証し、今後の参考にしていく。

市健康推進課によると、昨年度の市内女性の子宮頸がん検診受診率は40～50代では50％以上だったのに対して、20～24歳は10.3％、25～29歳は25.7％と、若い世代ほど検診を受けない傾向がみられた。

若い女性の受診率が低いのは「これまで検診を受けたことがない場合、検診への抵抗感があることが原因として

考えられる」（同課）として、試験的に女性医師だけが担当する検診を行うことにした。仕事に影響が出にくい週末に実施し、待ち時間をなくすために完全予約の時間指定制とする工夫もしている。

市では現在、子宮頸がん検診の受診希望者に対し、受診しようと思ったきっかけや、どんな形の検診であれば受けやすいかを尋ねるアンケートも行っていて、今後の検討材料にしていくという。

検診は10月22、29日、11月19、26日の計4日間、南アルプス市内の医院で実施する。各日定員20人（先着順）。10月分は同18日、11月分は同14日締め切り。申し込み・問い合わせは同課、電話055(274)8542。

中央市、山梨大とモデル事業
20～30代対象に予約制